

平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[分 類] 普及技術

[成果名] せんぶりのシクラメンホコリダニ防除にコロマイト乳剤が有効である

[要 約] せんぶりのシクラメンホコリダニ防除にコロマイト乳剤の 1,000 倍液を散布する。蚕毒、魚毒が強いので桑葉への飛散および河川、湖沼などへの流入に十分注意する。

[担 当] 野菜花き試験場佐久支場、農業試験場環境部、農業技術課

[部 会] 病虫部会

1 背景・ねらい

シクラメンホコリダニはせんぶり生産地で広く発生し、被害を生じている。本種はせんぶりの成長点付近に寄生し、被害株は生育が著しく遅延するため、大きな減収要因となっている。本種を防除するため効果の高い殺ダニ剤を選定するとともに、せんぶりに対する薬害の有無を検討する。平成 20 年に効果・薬害試験および試料調整を野菜花き試験場佐久支場、農業技術課および上小農業改良普及センターで実施し、作物残留分析試験を農業試験場環境部（農業総合試験場環境保全部）で実施した。平成 21 年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) せんぶりのシクラメンホコリダニ防除にコロマイト乳剤の 1,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

コロマイト乳剤

[一般名及び成分含有量] ミルベメクチン 1.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C 類相当

[対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 9 月 24 日現在 JPP ネット確認）]

作物名	適用害虫名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
せんぶり	シクラメンホコリダニ	1,000	100～300 L / 10a	収穫 7 日前まで	1 回	散布	1 回

3 利用上の留意点

- (1) せんぶりにおけるシクラメンホコリダニの被害は 1 年生株、2 年生株ともに認められ、2 年生株においては 5 月頃から発生が確認される。本種による被害は成長点付近の萎縮・奇形とともにアントシアンの発生を伴うので、初発を確認後、被害株を除去し、防除を実施する。
- (2) 本剤は蚕に対して毒性が強い（安全基準日数：稚蚕壮蚕ともに 60 日以上）ので、桑園付近では使用しない。
- (3) 本剤は水産動物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養魚池に飛散、流入するおそれのある場所では使用しない。
- (4) ミツバチに対して軽度の影響があるので、巣箱に直接かからないように注意し、養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する。
- (5) 眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入らないように注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) コロマイト乳剤のシクラメンホコリダニに対する試験を平成20年に小県郡長和町および青木村の農家現地圃場で実施した。

ア 長和町の試験では本種の発生状況は少発生であったが、本剤1,000倍液のせんぶりのシクラメンホコリダニに対する防除効果は、対照のサンマイトフロアブルと比較してほぼ同等で、無処理と比較して高い効果が認められた(表1)。

イ 青木村の試験では本種の発生状況は甚発生であったが、本剤1,000倍液のせんぶりのシクラメンホコリダニに対する防除効果は、対照のサンマイトフロアブルと比較してほぼ同等の効果が認められた。また、無処理と比較してその効果はやや低いものの、甚発生条件下の試験であることを考慮すると、効果は低いが実用性はあると考えられた(表2)。

(2) いずれの試験においても薬害は認められなかった。

表1 シクラメンホコリダニに対するコロマイト乳剤の防除効果(平成20年、佐久支場)

供試薬剤	希釈 倍数	調査 株数	被害株数			薬害
			散布 16 日後	散布 22 日後	散布 35 日後	
コロマイト乳剤	1,000	60	2(9.5)	3(12.5)	6(25.0)	なし
サンマイトフロアブル	1,000	60	1(4.8)	2(8.3)	6(25.0)	なし
無処理	-	60	21(100)	24(100)	24(100)	

値は3区の合計値、()内は対無処理比

試験場所: 小県郡長和町 農家現地圃場 品種: みまき1号 播種: 平成19年3月27日

区制・面積: 1区3.6㎡(1.8m×2.0m)600株/区 3反復 発生状況: 少発生

処理年月日および方法: 8月20日(生育期)に背負式動噴を用いて10a当たり300リットルの割合で散布した。展着剤は加用しなかった。

調査方法: 処理前(8月20日)、16日後(9月5日)、22日後(9月11日)および35日後(9月24日)、各区あらかじめ被害の認められない20株を定め、その後の被害の有無について調査した。薬害は肉眼観察による。

表2 シクラメンホコリダニに対するコロマイト乳剤の防除効果(平成20年、佐久支場)

供試薬剤	希釈 倍数	調査 株数	被害株数			薬害
			散布 16 日後	散布 22 日後	散布 35 日後	
コロマイト乳剤	1,000	60	19(43.2)	30(55.6)	32(61.5)	なし
サンマイトフロアブル	1,000	60	21(47.7)	31(57.4)	29(55.8)	なし
無処理	-	60	44(100)	54(100)	52(100)	

値は3区の合計値、()内は対無処理比

試験場所: 小県郡青木村 農家現地圃場 品種: みまき2号 播種: 平成19年3月27日

区制・面積: 1区3.6㎡(1.8m×2.0m)600株/区 3反復 発生状況: 甚発生

処理年月日および方法: 8月20日(生育期)に背負式動噴を用いて10a当たり300リットルの割合で散布した。展着剤は加用しなかった。

調査方法: 処理前(8月20日)、16日後(9月5日)、22日後(9月11日)および35日後(9月24日)、各区あらかじめ被害の認められない20株を定め、その後の被害の有無について調査した。薬害は肉眼観察による。

6 特記事項

[公開]制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験(佐久支場)、平成20年度(2008年度)、県単素材開発

農薬安全使用総合対策事業(農試環境部)、平成20年度(2008年度)、その他(国補)